

図書教材新報

Books
teaching
materials
magazine

Vol.235

今月の特集

①教材活用シリーズ ミライにつながる生活ノート (P. 6~7)

図書教材新報
Books teaching materials magazine

2024. 11. 25 Vol. 235 (total 1864号)
1956年1月5日 創刊 毎月25日発行

Teaching から Learning へ

第37期学校教材調査会英語科専門委員
東京家政大学人文学部教授

太田 洋



教育現場では、どのように教えるか、つまり「指導法」についての議論が盛んです。最近、私がある先生から聞いた言葉が心に残りました。「言語活動ばかり注目するのは、もう終わりにしませんか」と。これまでの授業は、教師が主語となり、どう教えるかに焦点が当てられていました。

しかし、本当に大切なのは、その教え方によって児童・生徒がどのように学びを受け取るか、そしてそれをどう活かしていくかではないでしょうか。教師がどう伝えたかだけでなく、児童・生徒がどう受け取ったか、学ぼうとしたか、さらには、その後児童・生徒はどうなっていくのかを見取ることが重要です。つまり教える側だけでなく、学ぶ側を主語にした視点、Teaching から Learning に焦点を当てる必要があります。

そのためには、児童・生徒に学びを委ねる場面を作ることが大切です。ある先生が実践した授業の話です。たまたま10分間が余り、その先

生は生徒たちに学習者用デジタル教科書を使わせて自由に聞き取りをさせたそうです。そのときに生徒たちが今までにない聞き方をしていました。線を引いた後にマッピングをする、英単語を書く、自分に近づける学びをするなど、教師が想定していなかった学び方を見ることができたのです。学びの様子を見取ることの意義を改めて感じたそうです。

教材作りに「Learning」の視点はどうか活かせるでしょうか。以下の工夫を考えました。まず、活動を通して児童・生徒がどのような学び方をするかを予想し、別冊に学び方と支援の仕方の例を示すことで、先生が多様なアプローチで支援できるようにします。また、既習事項を使って行う活動とその評価の観点を示し、学びを中期的に見取る方法を提示することが考えられます。

Teaching から Learning へ、この視点を取り入れ、授業と教材に新たな可能性を見出していきたいでしょう。今こそ、見直すよい機会です。

学第36回研究発表大会、総会 開催

コロナ後初の対面で実施

テーマ「生成AIと教材」と題してシンポジウム

日本教材学会(澤崎眞彦会長)では、10月5、6日の2日間にわたって、北海道・旭川市の「北海道教育大学旭川校」にて第36回研究発表大会を開催し、会員を中心に、研究者、教師、教材出版社、販売店、学生等が参加した。大会1日目は自由研究発表、シンポジウム、2日目は、自由研究発表、研究プロジェクトが開催された。合わせて、1日目には理事会、2日目には総会を開いた。

◎シンポジウム

テーマ「生成AIと教材」

シンポジウムは、渡壁誠氏(北海道教育大学旭川校)によるコーディネートのもと前半はワークショップ、後半はシンポジウムとして次のように行われた。

○ワークショップ

テーマ「生成AIを活用した授業設計」

シンポジウムの前半は、ラーニングスケルトンAI(略称:LSA AI) & ChatGPTを活用して指導の手順や展開方法を検討する活動を体験した。講師は、北畠謙太郎氏(株式会社メディアファイブ)、山本利一氏(埼玉大学教育学部)であった。

○シンポジウム

テーマ「生成AIと教材」

▼朝倉徹氏(東海大学)

「教材学的な視点から」

▼中里彰吾氏(文部科学省指定生成AIパイ

ロット校 札幌市立中央小学校)

「授業実践への活用の視点から」

◎研究プロジェクト、自由研究発表

自由研究発表は34本行われた。研究プロジェクトは以下の3本であった。

▼石川勝彦氏(鳴門教育大学)、百瀬光一氏(山梨学院大学)、下崎聖氏(同)

「社会直観主義道徳理論に基づく新しい道徳教育指導法の開発」「モノへの罪悪感」を手がかりにした人間理解の深化を目指して」

▼藤井大亮氏(東海大学)、朝倉徹氏(同)、前田善仁氏(同)、増田有紀氏(埼玉大学)、細矢智寛氏(女子美術大学短期大学部)、木野正一郎氏(IPU・環太平洋大学)

「教材と教科教育の研究ーデータサイエンスの功罪と、それを踏まえた教材・授業の改善についてー」

▼遠藤清将氏(宝仙学園中学・高等学校)、内山正登氏(慶応義塾女子高等学校)



令和7年度用
リスニング12
リハーサル 入試対策
英語 入試対策

すべての問題を最新入試で再構成
入試頻出の問題パターンを網羅

- 難関校で頻やまらぬ問題を網羅
- 解法のツボがよくわかる【実戦型CD】付き
- 英文は全文和訳付き
- 音声は音声CD付き

● 音声再生にWeb対応
● てびきの二次コードで、音声を再生しながら復習できる
● 再生スピード調整機能付き

浜島書店

2025年度版

★最新の入試事例リスニングで全問を構成

- 全国の入試傾向を分析・反映
- 1回あたり、4~8分

★大判で見やすいてびき

.....

◎音声CD付き(教師用)

◎Webでの音声再生に対応

- てびきの二次コードでご提供
- 復習や自宅学習に最適
- 3段階のスピード調整可能

リスニング12

英語 入試対策用

定価(税込)360円 A4判 全12回
2色刷り大判てびき・教師用音声CD付

信頼をつちかい学びで未来をひらく

株式会社 浜島書店

〒466-8691 名古屋市昭和区阿由知通2-1-1
TEL 052-733-8040(代) FAX 052-733-8977
<http://www.hamajima.co.jp/>

2024年(令和6年)11月25日 図書教材新報

「教科等横断的な学習におけるELSIをテーマとした教材の開発―国語科と理科の教科等横断におけるリテラシーの醸成―」

また、理事会・総会では、決算・事業報告などがいずれも承認された。

10月17日

小学校編集部長会を開催

小学校編集部長会では、第1回部長会を「協会会議室」で開いた。

会議では、まずはじめに正副幹事長の選任を行い、幹事長に正進社・北村有司小学編集部長、副幹事長に日本標準・矢田恵理子企画編集部マネージャーを選任した。

そのほか、

教著協との協議、共同許諾申請、SARTRASへの対応、来年実施する学校教材調査会事業の準備、ICT化における教材の在り方、文科省への働きかけ、教材の複製や公衆送信に関する問い合わせへの対応、広報活動、校務支援システムへの対応、ネットオークション対策等について状況確認と検討を行った。



小学校編集部長会

10月17日

著作権勉強会を開催

教材作成に関する著作権について、具体的な事例をもとに検討する著作権勉強会を、前田哲男顧問弁護士を招いて編集部長会を中心に開催した。

新しく施行されるフリーランス新法を中心に、各社から提供のあった具体的な事例を題材にして注意点などの共通理解を図ったほか、生成AIと著作権に関する考え方などについて意見交換を行った。

10月21日

小学校営業部長会を開催

小学校営業部長会では、2024年度第1回部長会を「協会会議室」で開いた。

当日は、はじめに正副幹事長の選任を行い、幹事長に正進社・田代和彦営業部次長、副幹事長に日本標準・森田祐樹営業部マネージャーを選任した。

その後、各協会総会の報告やブロック小学部会長との協議会での検討事項、災害時の滅失教材の対応に関する内規案について協議した。



小学校営業部長会

長年の信頼… とうほう の資料集!!

ニューススタイル

ビジュアル地理

別冊「白地図作業帳」、教師用ウェブサービス付
 豊富な写真&ワークで知識を定着

みつけよう?と!

歴史資料

教師用ウェブサービス付
 「問い」をスタートに、生徒が主体的に学べる構成

ビジュアル公民

教師用ウェブサービス付
 定番からユニークなものまで! 資料完備の決定版

東京法令出版 株式会社

〒380-8688 長野市南千歳町 1005

*Tel 026-224-5411 *Fax 026-224-5419 * <https://toho.tokyo-horei.co.jp/>

お知らせ

全販システムの先行改修

全図協では新学期に向けてシステム改修を進めており、一部先行して行っています。

〔システム改修先行実施〕

- 学校グループ数の追加
- 売上明細での入金登録期間の指定機能の追加
- 請求データに紐づいた領収書発行機能の追加
- 注文情報修正時の画面反映の仕様変更（リロード不要で画面上に反映）

そのほかのシステム改修は、利用販売店からのご意見ご要望をふまえながら、順次進めていく予定です。

教材士研修制度 基礎コース講座

今年度も実施中！

今年度も会員販売店と加盟出版社を対象とした体系的な研修制度『教材士研修制度・基礎コース講座』（オンデマンド形式）を実施しています（今年度の受講期間：2025年3月末まで）。

10月にはICT関係の講座において、最新情報を盛り込んだ動画をアップしています。

申し込み受付中ですので、社内研修等の一環として是非ご利用ください。申し込みは協会ホームページ（会員ページ）からお願いします。

講座内容

- 講座1 学校で扱う教材とその根拠法令
- 講座2 学校の授業と教材の関係
- 講座3 指導の成果の測定（評価）と教材の関係
- 講座4 教科書の編集と検定・採択のしくみ
- 講座5 発達段階と学習指導要領の関係
- 講座6 **教育のICT化に関する基礎知識**
- 講座7 教材に関する教育公務員の服務違反とは
- 講座8 学校直販や協会、業界について
- 講座9 学校直販におけるコンプライアンスについて

更新

11月2日
全九州ブロック勉強会、「新ネクストスタ
ディ」第1回を開催
九州ブロック（中井寛代表）では、勉強会を

ついで考える」をテーマに、全図協・渡部竜士専務理事による基調講演と、グループディスカッションを開いた。ディスカッションでは「今後の学校・行政との関わり方明日からの自分たちにできること」をテーマに、熱い討議が行われた。

宮崎市「アートホテル 宮崎スカイタワー」で開催した。今回の勉強会から「新ネクストスタディ」として企画し、九州ブロック会員販売店82名、他出版社10社より21名、全図協事務局1名が参加した。当日は、「紡ぎ創ろうミライの直販と協会」のテーマのもと、全図協・宍戸亮太事務局次長に



九州ブロック 新ネクストスタディ

よる「自主基準と教材士」今必要とされている規範や考え方とは、九州ブロック・高野哲久小学部会長による「我々が提案する【個別最適な学び】と【協働的な学び】、そして学校経営とは？」と題した講演会と、グループディスカッションを行った。

教材活用シリーズ 第174回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント(場面・方法)などをご紹介します。

ミライにつながる生活ノート

(株)浜島書店
中学校用生活ノート
『ミライパレット』



(株)浜島書店
編集部 生活ノート担当

『ミライパレット』(以下…ミラパレ)は、2024年度発刊の中学校用の生活ノートです。浜島書店の生活ノートとしては2021年度発刊の『ミライパスポート(A5サイズ)』があります。ミラパレはその姉妹本になります。ミラパレは『ミライパスポート』よりも大きな判型(B5サイズ)になり、より使いやすい工夫を盛り込んだ生活ノートになりました。今年、先生方から「採用理由として一番多くお聞きしたのは「生徒が取り組みやすそうだから」というポイントでした。本稿では、現場からご支持をいただいている

「使いやすい」「取り組みやすさ」のポイントを中心に紹介します。

1. 使いやすい！がまったこだわりの誌面

生活ノートは生徒が毎日開いて使用するものです。そのため、使いやすいについては姉妹本『ミライパスポート』と同様に、徹底的にこだわりました。

毎日開く通常ページ【図1】は、記入スペースだけを白く残し、記入すべき場所がはっきりとわかるようにデザインしました。ミラパレ



▲【図1】通常ページ

直感的な使いやすさにこだわってデザインした。

は全体を通して、最小限の説明で直感的に使えるデザインを目指して設計されています。通常ページの大部分を占める時間割にも工夫を施しています。資料集やワークなど必要な持ち物に○をつけて記録する工夫は多くの生活ノートに見られる工夫ですが、ミラパレはさらに特別な持ち物が「必要ない日」に○をつける「いつもの」という項目を設けました。ご使用中の先生からも「生徒の実態に合っている」とご好評の声をいただいています。また、ページ右下に「先生に聞いてほしいことがある」というチェック欄を設けました【図2】。これは生徒の心の変化やSOSを見

逃さないための工夫です。言葉で書くことにハードルを感じる生徒であっても、チェックするだけで先生への相談を申告できるようになっています。

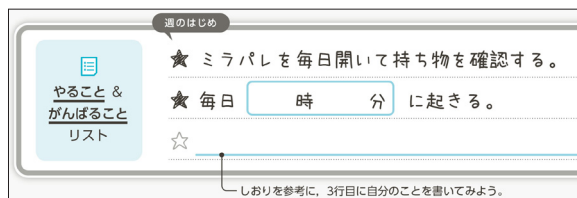


▲【図2】聞いてほしいことチェック欄
相談したい気持ちを伝えるハードルを下げている。

2. これなら書ける！無理なくできる！

現行の学習指導要領では、生徒自身が課題を設定して取り組み、それをふり返る活動が求められています。ミラパレはPDCAのエッセンスを取り入れ、「目標↓ふり返り」の習慣を身につけられるよう、通常ページに「やること&がんばることリスト」を設けました【図3・4】。まず、週のはじめに「がんばること」として目標を設定します。目標の設定が難しい生徒は、「がんばること」ではなく「やること」を記入して備忘録的に使うことができます。週の終わりには各目標についてふり返りを行うのですが、「○をつけるだけ」「選ぶだけ」のように徹底して負担感を減らし、一年生であっても「これならやれそう！」と思っただけのような構成にしました。

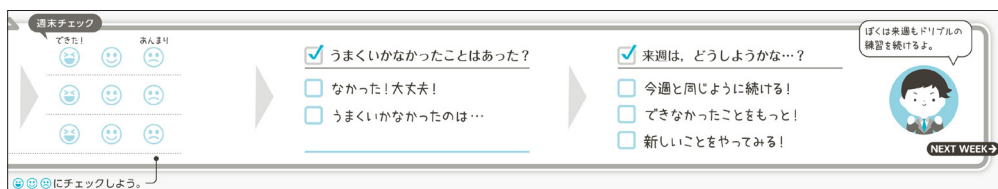
また、時間割の下の「つぶやき」欄は、生徒が日々感じたことを書いたり生徒と先生の交流に使ったりする部分です【図5】。しっか



▲【図3】週のはじめ（左側）
生徒が自由に目標を設定することもできる。

り書ける六行のコメント欄で、最下行は広くなっていて、先生のコメントを書き込むこともできます。

毎日書くとなると生徒は話題を探すのにも苦労するものです。ミラパレでは、無理なく続けられる記述量に設定すると同時に、つぶやき記入の参考になる「今週のハッシュタグ」を用いました。ご使用中の先生からは「生徒は上手にハッシュタグの話題を選んで書いている」「話題に困ったらハッシュタグを参考にしている様子です」とのお声をいただいています。



▲【図4】週末チェック（右側）
三段階の手軽な形式で、負担感なくふり返りを行うことができる。

3. 結びにかえて

生活ノートの主な機能は毎日の記録・備忘録です。しかしミラパレはそれだけにとどまらず、社会生活に必要なPDCAのエッセンスを取り込み、生徒のミライにつながる未来志向の生活ノートとして設計しています。そうした仕組みと取り組みやすさの両立にこだわるとともに、「毎日開く中学生にとって親しみやすいものを」と常に意識しながら作りました。このコンセプトは浜島書店の生活ノートシリーズを通じて考えます。書名やデザイン、ハッシュタグなどから感じ取っていただければ、編集担当としてこの上ない喜びです。

本書が充実した中学校生活の助けとなり、その名の通り、生徒一人ひとりの実現したいミライを描き出すパレットになればと願っております。



▲【図5】つぶやき欄
一番下の広いスペースに先生のコメントを記入できる。

～ 2023 年度事業報告概要・2024 年度主な具体的事業計画～

2023 年度 事業報告概要

I. 小・中学校教育等の振興への寄与事業

○教師等を対象としたセミナーやイベントの開催
各ブロックが企画する教師等を対象としたセミナーやイベントに対して運営の協力を行った。今年度の企画は次の通りである。

- ・近畿ブロック「教材フェスティバルin大阪」
- ・鹿児島県協会「小学校教材展示会」

II. 図書教材等の適切な普及と供給に関する調査研究事業

○学校直販業界の任務、役割の確認
○会員並びに社員・従業員の知識及び質的向上のための研究と研修
会員販売店向けの研修会や講演会等の開催協力を行った。

○市場拡大策の研究と実施
学校用教材の採用促進及び公平採択促進の各種運動について、地域の実情に即した啓発活動を継続して実施した。

○全国を対象とした災害復興支援の実施
1月1日に発生した能登半島地震の被災状況調査と復旧・復興のために、能登半島地震対策委員会を設置し、支援活動を検討、実施した。

・滅失教材の無償提供
・販売店と出版社からの見舞金の送付（販売店、出版社から100万円の計200万円）

・「全国災害復興支援制度」の認定（石川県を対象に1月1日まで遡って、12月31日まで）

○小規模校、少人数学級対策等の研究

○再販制度維持の調査研究

○日図協との連携によるデジタル教材及びICTを活用した教育に関する調査研究
文科省からの要請により、「学習eポータルに関する専門家会議」に森達也理事が委員として出席し、会議において教材業界への理解を広げるとともに、事務局を通じて協議内容を役員に報告した。

○教材等著作権保護委員会との共同による図書教材等の著作権保護に関する啓発宣伝
教材等著作権保護委員会と共同で深刻な被害を生じている図書教材等の複写複製利用の阻止対策を実施した。

○ネットオークション対策
○業界ネットワーク構築の推進

○文部科学省「土曜学習応援団」への協力
○PTA団体との連携
・日本PTA全国協議会（日P）の全国大会（広島大会）や各ブロック大会に全図協ブースを出展した。

・全国国立大学附属学校PTA連合会の「第14回全国大会」に渡部竜土専務理事と依田誠理事が出席した。

・日Pからの依頼により「創立75周年記念式典」に来賓として細谷美明会長と渡部専務理事が出席した。

III. 図書教材業界の発展のための研究と啓発宣伝事業

○図書教材と業界の価値、役割の啓発宣伝
図書教材の価値、役割と学校直販業界の社会的重要性を広く啓発宣伝した。

○都道府県協会の会員名簿の各教委への送付

IV. 事業推進のための組織強化活動

○都道府県協会組織の強化
都道府県協会と出版社の双方協力のもと、相互連携の強化を図り、各協会の円滑な運営、各種研修会の実施、協会育成強化費（拠出金）の実施、功績者の顕彰、その他各協会の事業・活動がより充実したものとなるための諸施策等を行った。

○ブロック活動と小・中学部会の充実
ブロック助成金や研修会等助成金を有効に活用し、ブロック会議や研修会を開催した。

○各都道府県協会、各会員販売店間の情報交換の促進

○各都道府県協会会員販売店及び従業者の福利厚生者の向上
（主なもののみ）

2024 年度 事業計画（主な事業の具体案）

1. 会員並びに従業員の知識及び質的向上のための研究と研修
○会員並びに従業員のために、オンラインも活用してさまざまな課題に対する研修会等を実施する。

○会員並びに従業員のための体系的な研修制度として、日本教材学会との合同委員会を中心に「教材士研修制度・基礎コース講座」を運用していく。

○協会・業界の次世代のリーダー層の人材育成を支援するための専門機関を幹事会の下に設置し、人材育成のプロセスとして、次のよう

な取り組みを行う。

- ・各ブロックや都道府県協会単位での次世代リーダー主体の組織設置の支援及び既存若手組織との連携
- ・次世代リーダーのための研修会の企画
- ・全国規模の次世代リーダーによるコミュニケーション（意見交換の場合）の設置、提供

2. 教育のICT化に対応して協会として取り組むべき課題の整理と対策

◇教育のICT化への対応として、日図協と連携しながら、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有、及び広報活動をはじめ協会として取り組むべき課題の整理と対策を進める。

3. 学校用教材の採用促進のための活動

◇日図協と連携しながら、学校用教材の現状と課題を整理し、それをふまえて、国・自治体・関係団体等に対して、教材費予算拡充を含めた学校用教材の採用促進のための働きかけを進める。

4. PTA団体との連携

◇日Pや全国国立大学附属学校PTA連合会の周年行事等に出席し、連携を深める。
◇日Pの全国及びブロック研究大会で都道府県協会や会員販売店、教材に関する宣伝活動を進める。

5. 会員販売店向け販売管理システム「全販システム」の運用、改善と、加入促進

◇「全販システム」の加入促進として希望販売店の説明会や働きかけを行う。販売店の業務の効率化をサポートするために、「全販システム」の機能追加等の改修を進める。

6. 学校用教材のインターネット等を経由した転売行為への対策

◇インターネットオークションやフリーマーケットサービス運営企業と共同して対策を進めていく。
◇見本本を通じた啓発の研究や、見本本の管理・回収の徹底などを推進していく。

7. 教師等を対象としたセミナーやイベントの開催への支援

◇各ブロックや協会が主催する教師向けのセミナーやイベントに対して支援を行うとともに、申請に応じて助成金支給規程に則り助成する。

8. 日本教材学会との連携と、活動への積極的な参加

◇日本教材学会の活動に積極的に参加し、教材の質と業界の地位の向上、及び会員並びに従業員の知識及び質的向上を図る。

9. 小・中学業界の諸課題の協議をふまえた各種取り組みの推進

◇ブロック小・中学部会長会議と出版社営業部長との協議会での取り組みについて推進していく。

【小・中学共通の協議事項】

○教育現場のICT化への対応として、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有及びこれからの小・中学業界のあり方の研究、協議。

○自治体等による教師用書の取り扱いに関する情報共有。

○物流事情理解のための学校や会員への周知徹底。

【ブロック小学部会長会議】

○小規模校対策
各地の取り組みも参考にしながら、引き続き販売店側で主体的に取り組める対策を検討していく。

○見本の簡素化

・2024年度の新学期見本において各出版社で行った対応をふまえて引き続き出版社側で研究していく。

【ブロック中学部会長会議】

○「子どもたちのみらいの学びを支えるプロジェクト」（略称：みらいの学びプロジェクト）

・営業部長会議とブロックとの意見交換会を年2回営業部長会議に合わせて開催。今年度は近畿ブロック（10月25日）と東北ブロック（2025年7月）での開催を予定。また、来年度には九州ブロック（2025年10月）で開催予定。

・全中目安箱を実施。出てきた意見要望への回答を全中メルマガを通じて2024年中に回答。

○全中・メルマガジンの運用

・メールマガジンの企画や内容の充実につとめる。

※詳しい事業報告・計画、決算・予算については、協会ホームページ（<https://nit.or.jp/>）の「会員の方へ」（パスワードkaseira6）からご覧いただけます。

全各ブロックで会議を開催

11月の全図協理事會等諸會議に備えて、各ブロックではブロック會議を開き、新学期販売分析や諸課題について検討している。

◇南関東ブロック

10月18日に笛吹市「ホテル春日居」で開催。各協役員など28名、加盟出版社1社より1名、全図協事務局より1名が出席。

小・中学部会に分かれて分科會を開催し、それぞれの諸課題について協議。久々の一泊開催で懇親を深める。

◇四国ブロック

10月19日に善通寺市「旧善通寺偕行社」で開催。各協役員11名が出席。

学校現場のICT化の動向や全図協事業、出版社への要望事項等について協議。

◇東北ブロック

10月25日に秋田市「秋田温泉プラザ」で開催。各協役員17名が出席。

学校現場のICT化の動向について情報交換。見本の簡素化や市場環境に合わせた取り組みなど出版社への要望事項について協議。

◇北信越ブロック

10月25日に加賀市「山代温泉 葉渡莉」で開催。各協役員12名、加盟出版社2社より2名が出席。

学校用教材の採用促進のための活動や学校からのFAXの代替措置対応、次世代の人材育成等について協議。

◇東海ブロック

10月26日に名古屋市「安保ホール」で開催。各協役員など16名、加盟出版社2社より2名が出席。

ブロック小・中学部会長會議、出版社との協議會、全図協幹事會などの経過報告の内容や、各ブロックでの検討事項を確認、周知する機會を各協三役や若手育成プロジェクトメンバーを対象にオンラインで実施することを確認。

〓 都道府県協会 会員だより 〓

☆代表者・商号・住所変更のあった会員☆
△代表者変更△

埼玉県：(株)三星社(比企郡) 埼玉県：(株)野澤秀行

愛知県：(有)至誠堂(東海市) 新代表：加古知宏

愛知県：(株)中本屋(知多郡) 新代表：金澤悟

△代表者・商号・住所変更△

長野県：石坂教育図書(株)

↓長野マルマツ(株)(長野市内)
新代表：大久保哲

全図協 販売管理システムのご案内

- ▶ 「図書教材ネット」と連動して、発注データを自動取り込み
- ▶ 納品書や請求書、売上明細などを一瞬で作成
- ▶ 複雑な売上・入金処理も簡単に管理

<お問い合わせ先>

一般社団法人全国図書教材協議會・事務局 (TEL 03-3267-1041) までお願いします。

業務の
効率化を
支援!

集記 編後

この1、2年で、自治体採択デジタル教材一択だった地域が、学校での教材採択に戻ってきているところがいくつもあります。その理由のひとつが、子どもたちの成績が落ちた、というものと聞きます。このことが本当なのであれば、学校教育、子どもたちにとって大変由々しき事態です。因果関係を含め、早急に調査し、結果を発信していかなければいけません。全国組織で先生・子どもたちの本音・現状を付度なしに収集・分析することができるのは、私たちの組織においてほかにありません。学校教育の本質を見失いつつある現状を、協會組織を大いに活用し、先生・子どもたちとともに変えていきましょう。

(竜)